

Oil Market Review 19第28号

2019年（令和元年）

10月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

10/10~10/16のNYMEX・WTIは、52.81~54.70ドルの範囲で推移した。

10月17日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が930万バレル増との市場予想の3倍に当たる5週連続の積み増しとなったものの、ガソリンと中間留分在庫は市場予想を上回る取り崩しがあったこと、EUと英国が離脱案に関する合意に達したことを好感し、続伸した。11月限終値は前日比0.57ドル高の53.93ドル。

週末18日は、中国の2019年第3四半期の経済成長が前年同期比6%増と減速したことを受け、3日振りに反落した。ベーカーヒューズ社発表の米国稼動石油掘削機は713基で前週比1基増、2週連続の増加。11月限終値は前日比0.15ドル安の53.78ドル。

週明け21日は、ロシアとOPECが増産しているとの報道、サウジとクウェートが休止中のカフジ油田生産再開に合意したとの報道、米中貿易協議における「第1段階」の合意について懐疑的な見方が広がり、続落した。11月限終値は前週末比0.47ドル安の53.31ドル。

22日は、OPECプラスが12月初めの次回会合での減産強化を検討中であるとする報道、トランプ大統領の米中貿易協議の第一段階の合意を11月中旬のAPEC首脳会議で署名するとの発言で、3営業日ぶりに反発した。11月限の終値は前日比0.85ドル高の54.16ドル。

23日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が170万バレル減との市場予想に反して6週ぶりの取り崩しとなったことを好感し、続伸した。この日から、中心限月に繰り上がった12月限の終値は前日比1.49ドル高の

55.97ドル。

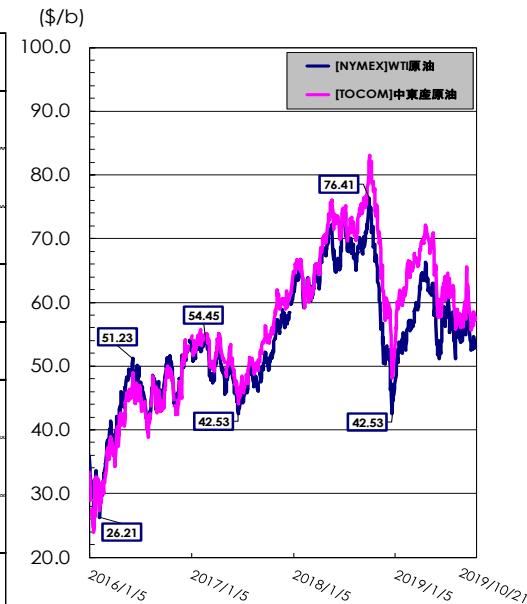
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は10月10日~16日の間57.80~60.30ドルの範囲で推移した。10月17日58.80ドル、18日59.50ドル、21日59.40ドル、23日59.40ドルで推移した。

為替は10月10日~16日の間107.37~108.74円の範囲で推移した。10月17日108.74円、18日108.71円、21日108.52円、23日108.41円で推移した。

財務省が10月21日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は、43,167円/klで、前旬比490円高、ドル建て63.77ドルで前旬比0.14ドル安。為替レートは1ドル/107.62円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・月間)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は、43,131円/klで、前月比2,292円安、ドル建て64.30ドルで前旬比3.08ドル安。為替レートは1ドル/106.64円だった。

そのような中で、10月21日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽は同0.5円の値下がり、灯油は同5円の値下がり(18㍑ベース)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに2週連続の値下がりだった。この週(10月第3週)の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油とともに、全社1.0円の値上げだった。

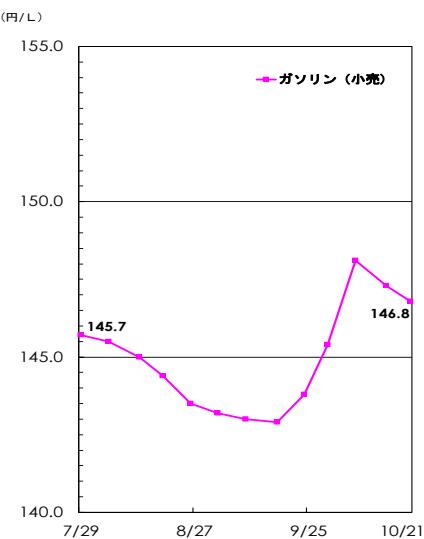
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/13 ~ 10/19	2,988	▼ -65	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.3	▼ -1.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/19	11,630	▲ 544	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/21	57.58	▼ -0.09	▼ -20.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/21	53.31	▼ -0.28	▼ -15.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	63.77	▼ -0.14	▼ -12.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	43,167	▲ 490	▼ -9,984
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.62	▼ -1.45	▲ 3.51
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/21	109.52	▼ -0.10	▲ 3.97



ウィークリー オイル マーケット レビュー 19第28号

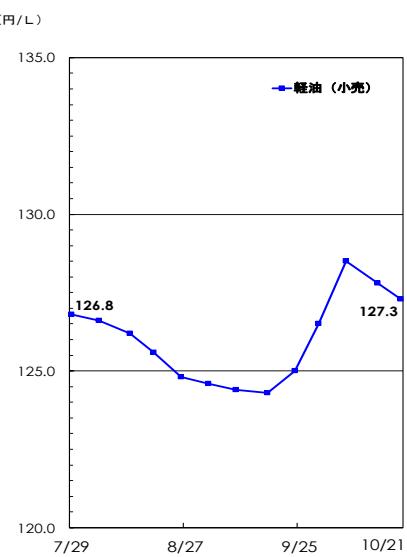
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/13 ~ 10/19	823	▼ -6
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	609	▼ -240
	輸出	"	131	▲ 96
	在庫	10/19	1,620	▲ 83
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/15 ~ 10/21	56.6	▲ 0.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/15 ~ 10/21	55.0	▲ 0.6
		10/21	56.0	▲ 0.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/21	146.8	▼ -0.5
				▼ -13.2

※業転、先物価格は税抜き価格

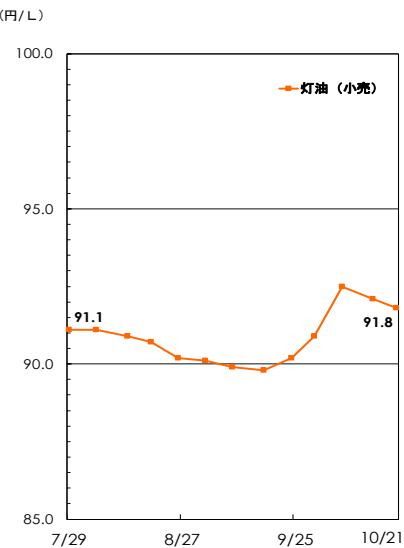


軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/13 ~ 10/19	693	▲ 34
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	522	▼ -75
	輸出	"	185	▲ 73
	在庫	10/19	1,362	▼ -14
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/15 ~ 10/21	59.0	▼ -0.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/15 ~ 10/21	61.3	▼ -0.1
		10/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/21	127.3	▼ -0.5
				▼ -11.1

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	10/13 ~ 10/19	201	▼ -67
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	78	▼ -104
	輸出	"	0	► 0
	在庫	10/19	2,753	▲ 123
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/15 ~ 10/21	58.8	▲ 0.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/15 ~ 10/21	57.2	▲ 0.7
		10/21	58.2	► 0.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/21	91.8	▼ -0.3
				▼ -8.0



■ 関連情報

1 海外/原油

10月23日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫は170万バレル減と市場予想(前週比220万バレル増)に反して6週ぶりの取り崩しとなったこと、ガソリン在庫も310万バレルの取り崩しとなったことから、米国の需給緩和懸念が後退し、続伸した。また、このところ有力メディアによるOPECプラスの減産強化に向けての動きも上昇要因となっている。この日から取引の中心限月に繰り上がった12月限の終値は前日比1.49ドル高の55.97ドル、1月限の終値は前日比

1.49ドル高の55.99ドル。

EIAによると、10月21日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がりの1ガロン2.638ドル(76.2円/㍑)、ディーゼルは同0.1セント値上がりの3.050ドル(88.1円/㍑)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年10月13日～10月19日に休止したトッパー能力は38.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は298.8万㎘と、前週に比べ6.5万㎘減少。前年に対しては6.6万㎘の増加。トッパー稼働率は76.3%と前週に対して1.7ポイントの減少、前年に対しては1.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.7%減、ジェット/17.4%減、灯油/25.1%減、軽油/5.1%増、A重油/32.9%増、C重油/16.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万㎘(前週比0.0万㎘減)。軽油の輸出は18.5万㎘(前週比7.3万㎘増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではA重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では全ての油種で減少となった。ガソリンの出荷は60.9万㎘(対前週28.3%減)と2週振りで減少となり、9週連続で100万㎘を下回った。ジェット2.6万㎘(対前週56.8%減)、灯油7.8万㎘(対前週57.2%減)、軽油52.2万㎘(対前週12.5%減)、A重油19.6万㎘(対前週38.9%増)、C重油14.1万㎘(対前週

150.8%増)。

(単位:千㎘)

	今週 (10/13～10/19)	前週 (10/6～10/12)	前週比
ガソリン	609	849	▼ -240 (-28%)
ジェット燃料	26	60	▼ -34 (-57%)
灯油	78	182	▼ -104 (-57%)
軽油	522	597	▼ -75 (-13%)
A重油	196	141	▲ 55 (39%)
C重油	141	56	▲ 85 (152%)
合計	1,572	1,885	▼ -313 (-17%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月19日時点の在庫は、ジェット、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは162.0万㎘、前週差8.3万㎘増。前年に対しては1.8万㎘多い。

灯油は275.3万㎘、前週差12.3万㎘増。前年に対しては18.6万㎘多い。

軽油は136.2万㎘、前週差1.4万㎘減。前年に対しては7.1万㎘少ない。

A重油は72.3万㎘、前週差1.3万㎘増。前年に対しては3.4万㎘多い。

C重油は192.7万㎘、前週差2.0万㎘増。前年に対しては18.0万㎘少ない。

(単位:千㎘)

	今週 (10/19)	前週 (10/12)	前週比
ガソリン	1,620	1,537	▲ 83 (5%)
ジェット燃料	916	918	▼ -2 (-0%)
灯油	2,753	2,630	▲ 123 (5%)
軽油	1,362	1,376	▼ -14 (-1%)
A重油	723	710	▲ 13 (2%)
C重油	1,927	1,907	▲ 20 (1%)
合計	9,301	9,078	▲ 223 (2.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月15日～21日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、10月15日～21日の間、ガソリン109～110円台で値上がり後横ばい、軽油58～59円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油58円台でわずかに値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111円台で横ばい、軽油61円台でわずかに値下がり後横ばい、灯油53円

台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～109円台で出入り後値下がり、軽油61円台でわずかに値下がり、灯油56～57円台で横ばい後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月15日～21日の製品スポット市況は、10月8日～14日平均と比べ、ガソリンと軽油の海上の横ばい、軽油の陸上と先物の値下がり以外の油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(10/15～10/21千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.2円の値上がり、軽油は横ばいだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.6円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

10月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、全社1.0円の値上げとなった。

		(単位: 円/㎘)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (10/15～10/21)	前週 (10/8～10/14)	前週比
ス	レギュラー	56.6	55.9	▲ 0.7
ポ	灯油	58.8	58.6	▲ 0.2
ツ	軽油	59.0	59.2	▼ -0.2

		(単位: 円/㎘)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/15～10/21)	前週 (10/8～10/14)	前週比
先	レギュラー	55.0	54.4	▲ 0.6
物	灯油	57.2	56.5	▲ 0.7
価	軽油	61.3	61.4	▼ -0.1

※上記価格は税抜き価格

		参考値 (10/15～10/21実績値) (単位: 円/㎘)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 0.6	
灯油	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 0.4	
軽油	▼ -0.2	▼ -0.1	▼ -0.1	
A重油	▼ -0.3			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の146.8円、軽油も同0.5円安の127.3円、灯油は18.1円ベースで同5円安の1,652円(1ドルベースでは同0.3円安の91.8円)。ガソリン・軽油・灯油ともに、2週連続の値下がり。都道府県別には、値上がりが5県、横ばいが1県、値下がりが41都道府県となった。全国最安値は鳥取県の140.8円(前週比2.2円安)、その次は、滋賀県の141.0円(同0.1円高)、最高値は長崎県の156.9円(同0.4円安)。最も値上がりしたのは0.3円高の香川県(146.8円)、横ばいは秋田県(149.2円)、最も値下がりしたのは2.2円安の鳥取県(140.8円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、0.5円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。次週(10月28日)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位: 円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (10/21)	前週 (10/15)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	146.8	147.3	▼ -0.5
	灯油	91.8	92.1	▼ -0.3
	軽油	127.3	127.8	▼ -0.5
			08/8/4	185.1
			08/8/11	132.1
			08/8/4	167.4

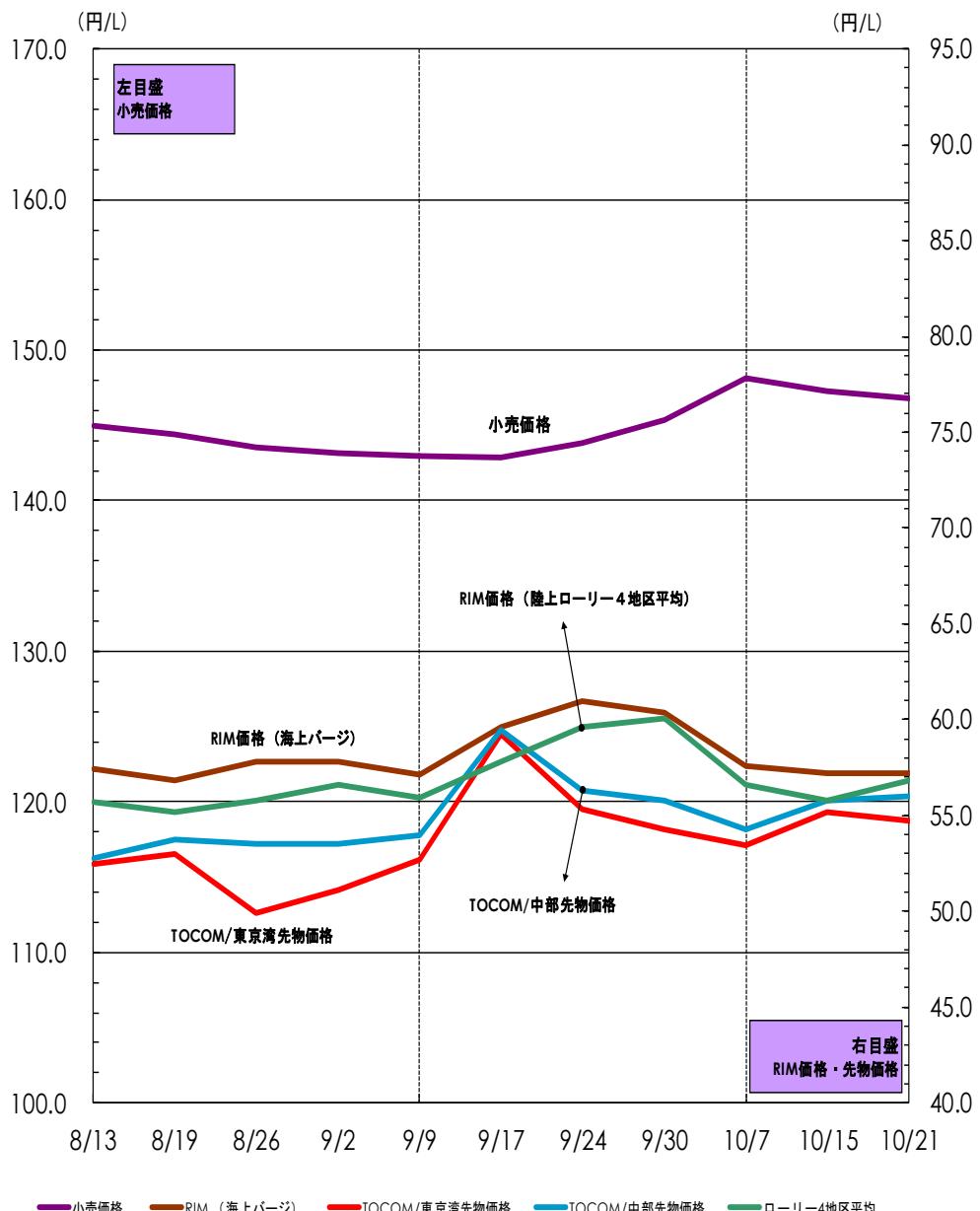
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/8/13 ~ 2019/10/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2019第29号）の公表は、11/1（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成31年3月末現在）は、7月31日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。